

## 第24回ISMCに参加して

工学部 機能材料工学科 石丸 雄大

ISMC(International Symposium on Macrocyclic Chemistry)は毎年行われる大環状化合物に関する国際会議である。特に大環状化合物を利用した超分子構造体の合成ならびに物性に関する研究が活発に発表されており、このことは本会議の基調講演者がJ. M. Lehn 教授であるということからもうかがいしれる。筆者自身としては前回(ハワイ; 1998年)に続いて2度目の参加であった。今回は、Universitat Autònoma de Barcelona(スペイン)のHotel Campus Convention Center(写真1)で平成11年7月19日から7月23日にわたって開催された。登録参加者はヨーロッパ、アメリカを中心に20数カ国から250人あまり、日本からの参加者は約20名であった。埼玉大学からは筆者だけが参加した。



写真1 会議場前にて

バルセロナ(Barcelona)は1996年にオリンピックがあったスペイン第2の都市であり、建築家アントニオ・ガウディが設計したサグラダファミリアがあるところでも有名であり、日本人にもなじみのある都市である。サグラダファミリアは約100年前から建設が始まり完成までまだ後200年もかかるといわれている壮大なもので、今回の国際会議のシンボルとしてデザインに利用された。(図1)

筆者は7月18日に成田を発ちドゴール空港(フランス)経由で現地時間9時半頃着く予定だったが、ドゴール空港での乗り継ぎ便が約1時間半遅れてしまいバルセロナには夜11時に着いた。スペインではいたる所でペセタに両替できると聞いていたので、日本を発つときに両替していなかった。空港に着くと、慌てて銀行窓口駆け込んだが、終業時間20分前にもかかわらず両替できない、もう終業した(Closed!)といわれ真っ青になった。さいわいゲートを出ると自動両替機や銀行のATM(日本の銀行カードも使えた)があり、事なきを得た。後でわかったことだがスペインは銀行や自動の両替機が多く、いたるところで簡単に外貨をペセタに両替でき、100ペセタが約80円ぐらいで、各銀行により為替相場がかなり違っていた。空港からバルセロナ市内のホテルまでは、タクシーで30分ほどで非常に歴史を感じるたたずまいのホテルだった。この時期のスペインは日の出が7時頃で日没が大体9時過ぎぐらいであり、日本との時差がマイナス7時間でスペインの日中がちょうど日本における筆者の生活時間とオーバーラップしていたこともあり時差ボケもなくすごせた。日中はかなり暑いものの日本に比べ湿度が低いいため過ごしやすく快適だった。ただついた日の翌日registrationをする前にバルセロナの中心街を見て回ったのだが、日

### XXIV ISMC'99



### International Symposium on Macrocyclic Chemistry

**Barcelona**

18-23 July 1999

図1 大会シンボル

曜日にもかかわらず休みの店が多く、驚いた。これは敬謙なクリスチャンが多いスペインでは、日曜日は安息日としてとらえているためだそうです。

会議があった会場は鉄道で40分ほどのバルセロナ郊外の、広々としたキャンパスにあるホテルの会議場であり日本の大学と違いを感じた。会議はLehn教授の基調講演で始まり（この講演で超分子の過去現在未来について非常に力強く講演された。）朝9時半から午前中は主に招待講演と口頭発表で昼食時間（約一時間半）を挟んで午後は19時まで、ポスター発表は2日目と4日目の午後と非常に密度の濃い学会だった。筆者は二日目の午後、シクロデキストリンモノオキシアニオンを用いたシクロデキストリン多量体の合成とその包接能についてポスター発表を行った。（写真2）一時間あまりの発表であったがいろいろな国の人と議論でき有意義な発表だった。今回の会議で特に筆者の興味を引いた発表は名古屋大学の藤田先生の講演であり、分子設計により非常に美しい超分子の世界をスマートに講演しておられ、同じ日本人としても非常に感銘を受けた。

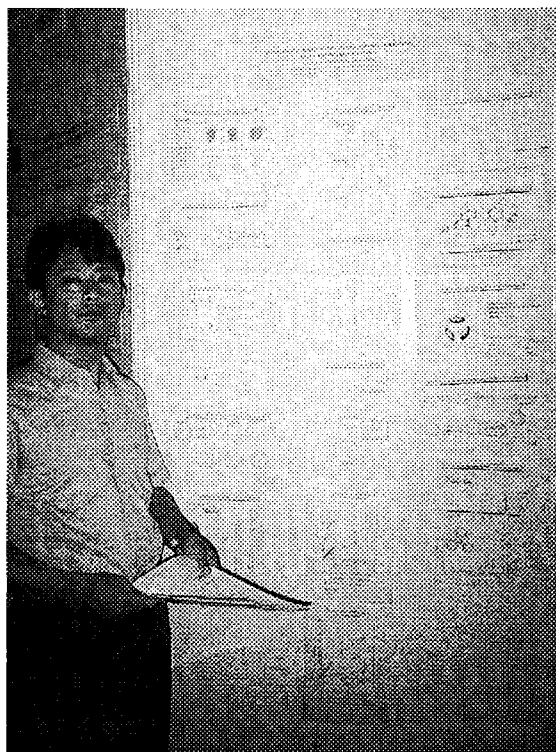


写真2 ポスター前にて

最後にスペインで感心したところは写真3のように古い地下鉄の階段にも車椅子運搬用の装置があり、いたるところで身障者にやさしい街作りが行われているところだった。新聞などではユーロ統合などでスペインは経済的に二流国だという報道を読むが、経済的に一流だと自負しているにもかかわらず、漸く身障者まで配慮した環境整備が行われている日本の精神的な貧しさを感じずにいられてませんでした。

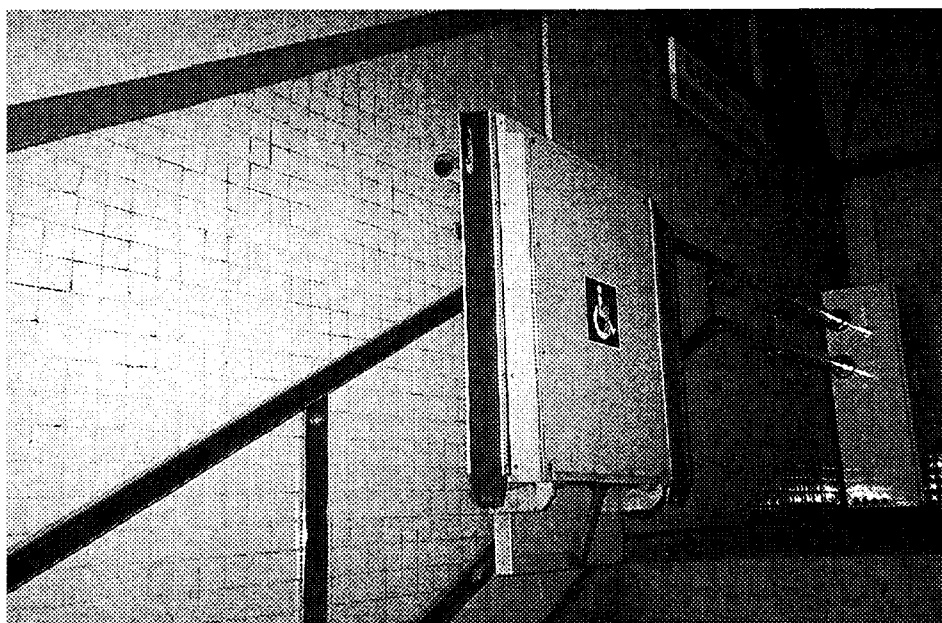


写真3 地下鉄駅にて

今回の渡航は非常に実りあるものでしたが、この渡航に関しては埼玉大学国際交流基金の助成を受けており、紙面をかりて関係者各位に感謝する次第であります。